

幼い日の幸

夕空はれて 秋風吹き 月かがおちて

さず出るく 思えば遠し 故郷の空

あや 夕木文世 いかたふりす

父がよくうらたていた

当時外にいらた文 古里がわつみしかつたし

両親のこゝを思い出して いらと思ふ

その父も かなり前遠くへ行つてしまつた

人もあまごとも すまごつて行く

私自身も たくさんの思いで

とんく さつて行つた

幼いころ自宅の前の祖父の庭で一人

あそんでいらた 子つはボタのたねを 手の

ひらいて ばいあつた いた まつはボタ

木反遠にうた

学校へ行くとうらに きてきあをき

ゆぐすわ

休みの時 校庭の山の方へ 行き 草取りを

して 休みの時が 終つたのあつたが ずい

草取はと 帰つて とうくと 教室へまど

教皇に会った  
とみつけた

先日は にごうとして 船を見た  
たけ

おろかたはと気がついた

三年生にたけ

つづり方の時間 舟に出た

高台の庭へ行き 先客に <sup>おつかい</sup> やう <sup>おつかい</sup> を

おとしやボウ 海の小舟の出入りをたがひた

しばらくして 教皇へもどって

つづり方をかきまじらうとす

とんく かけてしすう

高台へ行つた時 タイヌク不ぐりしを見つけた

とんく とつ 見のがすここのとみえ

思い出したたけ

おのころの友達 教習も終り それそれ

引子おがて どなたい、やめからす

現在 デンリ 友達が三人い、たけにたて

しすうた

2022  
11/1